



刻もう」と語りかけ、関根秀樹理事長も祝辞で「教育と文化の発展

恒例の派遣留学・海外夏期セミナー提携5大学から届いた祝福ビデオメッセージが新入生を歓迎。式典を終えた新入生たちは各サークルの勧誘の長い列を通り抜けながら校舎に入り、早速ガイダンスに臨み新しい一歩を踏み出しました。

の実現のために青春の情熱を燃やせ」と激励しました。また開学20年目の節目に「新たな歴史を共に

利益よりも世界に貢献できる人材に成長したい」と力強く抱負を披露しました。

主体的に楽しく学べ 青春の情熱を燃やそう

「世界にあふれる情報を正しく理解し判断し、一国の斎藤仁美さんが

平成25年度の入学式が4月1日、本校体育館で行われ新入生312人（情報文化学科122人、情報システム学科190人）が、前途を祝うような素晴らしい青空の下、みずき野キャンパスでの学生生活をスタートさせました。

にいつそう寄与し時代の要請に応えたい。幅広い知識や技術を修得し生き抜く力を養ってほしい」と奮闘を期待しました。

希望に胸膨らまし緊張気味の新生入生に、平山征夫学長は式辞で「学ぶことの楽しさを知って主体的に学び、考える

「勉学も研究もクラブ活動も大いに楽しむぞ、という気概で臨んでください。自分から考え行動し多くの人と関わり充実した学生生活を送りましょう」と歓迎の辞を



平成25年度(第20回)入学生 希望を膨らませ312人

CONTENTS

(2・3・4・5面)

平成25年度入学式特集
学長式辞 理事長祝辞
新入生代表・私の抱負
在学生代表・歓迎の言葉

新任教員紹介
退職教員あいさつ
教員の活動報告

(6・7面)

新入生に向けてメッセージ
学部長・両学科長の激励
サークル紹介(写真部)

オープンキャンパス案内

(8・9面)

派遣留学・
海外夏期セミナー帰国報告

(10面)

卒業にあたって・
多くの出会いと感謝

湧源・編集後記に代えて

(11~14面)

平成24年度卒業式特集
学長式辞 理事長祝辞
JABEE認定8人に修了証書
卒業生総代答辞
式典スナップ 特別表彰

入学式

新潟国際情報大学学長
平山 征夫開学20回目の新入生
共に新たな歴史を刻もう

新入生の皆さん、本学への入学おめでとうございます。本学役員、教職員一同を代表いたしまして、皆さんに心からお祝い申しあげますとともに歓迎申し上げます。

本学では平成6年の開学以来、毎年このみずき野キャンパスに春とともに新入生を迎えてきましたが、皆さんはちょうど20回目の新入生です。私としましては感無量の思いと大きな喜びを持ってこの入学式を迎えました。

皆さんはこれからこのみずき野キャンパスで4年間の大学生活を送るわけですが、入学式に臨み、今は期待と不安で胸がいっぱいのことと思います。でも心配することはありません。私も教職員挙げて皆さんがスムーズに大学生活に溶け込めるようサポートしてまいりますので、分からないことは遠慮なく質問し、1日も早く有意義な大学生活が送れる体制を築いてください。

冒頭申し上げましたように、本学は本年開学20年目を迎えます。人間でいえば成人式を迎えるということです。今日からは成人したこの大学の新たな歴史を一緒に刻む

ことになるわけです。

本学は幸い多くの先輩教職員、卒業生たちの努力もあって、この20年という比較的短い歴史のなかで多くの有能な卒業生を輩出することができ、地域からも信頼される大学として評価されてきました。いっそう地域から頼りにされる大学へと発展できまよう、皆さんに大いなる期待をしているところです。また大学としましては20周年を機にさらなる発展のための大学改革を行うこととしていくところです。

本年は情報文化学科122名、情報システム学科190名、合計情報文化学部312名の新入生を迎えました。私をはじめ教職員一同、建学の理念であります「わが国の社会、文化についての認識と理解を基礎に、国際化、情報化の社会の中で役に立ち、能力があり、意欲があり、人間性豊かな人物を育成する」という目的に向かって、皆さんが日夜勉学に励み、人格・人間形成に励むことができるよう最大限サポートしてまいりますので、皆さんも全力でぶつかっててください。

入学式に当たり学長として皆さんにお願いなど、少しお話をしたいと思っています。大学は高等教育の場です。皆さんは、先ほど述べました本学の建学の精神などに共鳴し国際文化、情報文化、情報システムといった専門分野に興味を抱いて、高等教育を本学で学ぶことを選択したわけですね。私たちはそうした希望に応える責任がありますが、皆さんにもご自分の目的に向かって努力する責任があります。学生の本分は学ぶことです。私たちは全力で皆さんの教育指導に当たります。でも何といたっても学ぶのは皆さんです。

第1のお願いはしっかりと勉強してくださいということです。大学では高校までのよ

うに知識を得るために学ぶだけではなく、知識を生かすこと、得た知識をもとにそこから真実を見出すべく考えることが求められます。考える訓練が思考力となって、判断力も磨いてくれます。一般基礎知識と専門知識をバランスよく学ぶことで、深い専門知識とともに、人間性豊かな人格形成にも努めることが重要であることも忘れないでください。

また、大学では自ら主体的に学ぶことが求められます。高校のように決められた授業スケジュールに従って学ぶものではありません。何を学ぶかカリキュラムを作るのは自分です。しかも選んだ授業に出るか休むかも自己判断です。入学後最初の半年間に、自ら学ぶという生活習慣を身に付けることが重要です。それができないと授業に付いてゆけず、欠席しがちになってしまいます。学ぶ習慣をきちんと身に付け、学ぶことの楽しさを知ってください。

私は「大学は魚に泳ぎ方を教えるところだ」と言っています。もともと泳げる魚に泳ぎ方を教えるのは、より正しい泳ぎ方を教えることで、魚が自らの力でより力強い泳ぎ方を身に付けるからです。もともと皆さんは学ぶ力を持っているのです。その力を最大限引き出すのが大学の役割だと思っています。入学後できるだけ早く泳ぎ方の基本を身に付け、自分で泳ぎだしてください。

もう一つのお願いは、できる限り幅広い思考のできる人間になるよう心掛けてくださいということです。大学では単に知識を得るのではなく、考える力をつけるために学んでくださいと申し上げました。また、学び・考えることを通じて豊かな人間性を身に付けてくださいとも申し上げました。そのためには深く専門分野を学ぶことと同時に、幅広く哲学、文学、美術、音楽など思考と感性を豊かにしてくれる分野にも大いに興味を持って取り組んでください。クラブ活動や、先生や友人との人間関係から

も育まれるでしょう。積極的に部活や友人づくりにも取り組んでください。入学式の最後に本学の校歌が歌われますが、その中に「あこがれを空に描いて 友と歩もう 夢創る道を」という歌詞があります。まさに本学で皆さんは豊かな人間性を育み、友人と互いの夢を語り、その実現のために学んでください。

経済学の父といわれるアダム・スミスは「国富論」のほかに「道徳感情論」という本も書いています。スミスはその著書の中で「世の中には弱い人と賢い人がいる。弱い人は世間一般の評判を重視する自惚れや野心を持った人間で、経済的に豊かになれば幸福になれると考えている。賢い人は自分の中にある偏りのない観察眼に従って、公正で醒めた判断と行動のできる人間で、人間の幸福感が経済的豊かさとは比例しないことや虚栄心の無意味さを知っています」。スミスはこの二つの人間の類型について、「実は野心と虚栄心に突き動かされている弱い人が、他人から賞賛されたい、注目されたいと考えてきたからこそ、そのエネルギーによって経済社会は多くの富を生み出してきた」とも言っています。確かに世の中の人が皆良寛さんのように無欲では経済は成長しないでしょうが、豊かさのみを追い求める人間ばかりでも困ります。皆さんはどちらのタイプの人間を目指しますか。私は大学で皆さんには「人間はどう生きるべきか」をテーマに幅広く学んで、そして賢い人間としてどう生きるかを考えてほしいと思います。

明日から大学生活が始まります。それは高校生時代とは全く違い限りなく自由なものです。でも自由ということ、授業に出ようが、家で寝ていようが、部活に出ようが、でも自由であるからといって学生の本分である学ぶ事をサボってははいけません。易きに流れれば限りがありません。自由を履き違え、だらしない生活を送らないよう

自己管理をしつかり行い、計画的な大学生生活を送ってください。そのためには4年間で何を修得するか目的をたて、それを達成するための計画を作って、それに向かって日々有意義に過ごしてほしいのです。授業を聞き、復習することはもちろん、さらに自己研究したり、語学をマスターしたり、資格修得を目指したり、部活で汗を流したり、多くの選択が大学生活にはあります。目的意識を持ち、秩序ある大学生活を送ってください。

祝 辞



学校法人 新潟平成学院
理事長 関根 秀樹

4年後の社会を見つめて 知力、学力、生き抜く力を

ようやく待ちに待った春が到来しました。

本日、入学された皆さんに「おめでとう」と心から申し上げます。若々しく、元氣瀟々とした諸君をお迎えし、本学を設置いたしました学校法人としても大変うれしく存じます。皆さんの背後にあって、その成長を見守ってこられたご父母の方々にもお喜びを申し上げます。

さて、いまの時代、政治も経済も諸外国との関係の重要性が一段と増してきています。こうしたますます進む国際化の時代には、幅広く国際的な視野に立つて考え、行

毎年こうしたお願いと併せてもうひとつお願いをしています。あまり入学式にはふさわしくないのですが、学生諸君だけではなくご父母の方々にも一緒に聞いていただきたいと思っています。それはこうして期待に胸を膨らませて入学しながら、途中で休退学する学生がいることです。経済的理由による休退学者もこのところ少し目立っていますが、勉学意欲の喪失、実質は授業についていけないという理由が一番多いようです。極めて残念なことです。しかもよく観

動できる人材が求められます。企業もどのような人を求めているかというと、一つは、異文化を理解し、英語で表現でき、世界の中で活躍できる「グローバルな人材」です。もう一つは、情報システムや情報技術を活用して「イノベーション」を起こすことができるような専門家や起業家であり、このような人材を、この新潟の地で育て、将来にわたり経済産業界で活躍させたい、貢献させたい、との希いをもって本学は創設されたのであります。平成6年の開学です。

すので、本年はちょうど20周年の一つの区切りの年になります。21世紀の時代の要請に応えた高等教育機関であり、教育研究をはじめ文化の発展にいつそう寄与していきたいと考えております。

いよいよ、大学生活が始まります。大学は学びの場です。一般教養をはじめ、それぞれの専門分野のカリキュラムがあり、期待に応えられる教員と万全な態勢で学生をサポートする職員がおります。しっかりと教師の教えを吸収し、多くの本や文献を読み、知識や幅広い技術を修得してください。知識量が多ければ考える幅も広がります。大事なことは、それを使ってどのように考え結論を出していくかです。自分で問題の核心を発見し、どのように解決していくかというのを身に付けてほしいものです。ただ、世の中は全く想定外のことが起こ

ますと、もっと早く相談してくれば何とか休退学にまで至らずに済んだケースが結構あります。私としては極力こうした事態に至らぬよう大学も全力で皆さんの相談に乗って問題解決に努めたいと思いますので、どうか悩みを抱え込まず前広に相談してください。多くの場合が自由すぎて自分の目的が定まらず、勉学習慣が身に付かず授業についていけなくなり、登校しなくなるというケースが多いようです。そんな状態になり始めたら、すぐにゼミの先生か

るものです。もちろん知識も学力も重要ですが、これからの時代は知識以上に不可欠なのは決断力や不屈の精神力、生き抜く力ですから、大いに切磋琢磨して自らを鍛えてください。

また、勉強以外にもいろんなことに挑戦してください。スポーツをはじめ文化・サークル活動、ボランティアなどを通じて多様な人とぶつかり合って力を伸ばすことが大切です。そして青春を謳歌して楽しんでください。

本年に入って、わが国も政治的にはいくらか安定し、経済も回復の兆しが見えてきました。東日本大震災と原発破壊から2年を経過したものの、その後の復興、復旧は遅々として進んでおりません。

少子化は進み、社会保障も財政も屋台骨が揺らぐ、先の見えない時代の中に私たちはおります。そんな中で4年後には社会人として本学を巣立つことになります。どんな目的を持って、どんな仕事に就くか、どんな人生を生きることになるのか、自分の選択に懸っています。それぞれの学科で専門分野の知識や技術を高めることにより、このみずき野での4年間で有意義であったと思える学生生活を送ってください。それぞれの目標実現に向かって、これからの奮闘と努力を期待し、歓迎のご挨拶いたします。

学務課の担当者、学生部、学習指導委員の先生など、どこかに相談してください。

ご父母の方々にもよくお子さんと大学生活についてお話をさるようお願いいたします。特に入学後の半年くらいの間で勉強態度が確立できるかどうかのポイントです。よく見守ってください。ゼミなど欠席が続いた場合には大学側から連絡させていただきます。不幸にして途中で家庭事情の変化で勉学の継続が難しくなった場合にも相談ください。大学は勉学意欲を持った学生が何とか学び続けられるよう最大限対応を検討してまいります。どんな事態になっても勉学意欲は持っていてください。一緒に悩み相談に乗ってくれる人がいることを忘れないでください。

私たちは20周年の記念事業として、学生会館の建設や奨学金制度の充実等を計画しています。皆さんのキャンパスライフがより充実したものになるよう願ってあります。このみずき野の豊かな自然の中で、越後平野の四季の移ろいを感じながら充実した大学生活を送り、「青春の夢」の実現に向けて情熱を燃やしてください。

東日本大震災から2年が経過しましたが、思うように復興は進まず、不便な生活を送っている人たちがまだたくさん居られます。また被災のため大学進学がままならなくなった若者もいます。こうした被災者の方々の思いやる気持ちを持ち、学ぶことのできる喜びを自覚してください。

本学では挨拶運動を行っています。大学内ではお互い元氣な声で「おはようございます」「こんにちは」と挨拶しましょう。挨拶から信頼しあう人間関係が生まれます。今日から皆さんは私たちの仲間ですから、挨拶し合いましょ。そして良い人間関係を築きましょ。皆さんの颯爽とした大学生活ぶりを楽しみに学長としての歓迎の挨拶いたします。



新入生代表 情報文化学科
斎藤 仁美

あふれる情報を理解し判断し 世界に貢献できる人材に育ちたい

桜の蕾もふくらみ、川面に春の日差しが躍る季節となりました。

本日は、私たち新入生のために、このような素晴らしい入学式を挙げていただき

まして、誠にありがとうございます。また、数々のお祝いの言葉をいただき、心より厚く御礼を申し上げます。

現代社会は、コンピュータが世界の隅々まで普及し、インターネットによって、情報が一瞬にして世界中を駆け巡る時代となりました。私たちは、そのような社会の中であふれる情報をそのままのみにせず、自ら正しく理解し、判断する力が求められています。先生方の教えを請いながら、自らの倫理観や判断力を身に付けていきたいと思っています。

また、私たちは今世界で起きている諸問題について、広い視野でとらえ、その解決について自ら考える力が求められています。環境問題や民族問題、貧困問題など世界中の人間が手を取り合って問題解決をしていかなければなりません。ますます国際交流

が必要となるでしょうし、国際感覚や異文化理解が求められるでしょう。一国の利益よりも、全世界の人々の幸せを追求していかなければなりません。私たちには、平和で子どもたちが安心して暮らせる地球を後世に残す責務があります。

今の私は学力においても、人間的にもまだまだ未熟で、勉強しなければならぬことがたくさんあります。学生同士で切磋琢磨し、見識豊かな先生方から教えを受けて、世界に貢献できる人材に成長していきたいと思っています。そのために全力で学問に精進してまいります。

先生方の厳しいご指導をお願いし、入学生活を代表いたしまして抱負とさせていただきます。

歓迎の辞



在学生代表 情報文化学科
大沼 竜二

勉学、研究、クラブ活動を楽しみ 自分から考え行動の幅を広げよう

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。また、御臨席いただきました多数の保護者の皆さま、おめでとうございます。皆さんの入学を、在学生一同心から歓迎い

たします。

さて、新入生の皆さんは新潟国際情報大学の学生として、これから4年間の大学生活を送ることになります。今日はその第1日目です。今、どのようなことを考えていますか。分からないことが山ほどあり、言い切れぬ不安を抱えている方もいらっしゃると思います。しかし、大学は端的に言えば「楽しむ」場所です。勉学、研究を楽しみ、友人たちとの交遊を楽しみ、クラブ活動を楽しみ、教員やさまざまな大人たちとの関わりを楽しむ。自分で大学の外から楽しむものを見つけてくるのもいいと思います。そういった「楽しむ心」をこの大学生活でモノにし、社会に出てからはもちろん人生を終えるまで持ち続けてほしいと思います。

ですから皆さん、今からでも構いません。

「大学生活を楽しむぞ」という気概でどうか臨んでみてください。ただし、目標も立てずただ楽しいことだけを追い求め、やらなければならぬことをないがしろにしてはいけません。また、人に迷惑をかけてはいけないことは、言わずもがなです。自分はこの大学生活の最後にどうなっていればよいのか、それまでにやらなければいけないことは何かを把握し、行動に移した上で思いっきり楽しんでください。悔いの無い四年間を送れると思います。

前置きが長くなりましたが、これから大学生活を送る上で大切なことを二つ、新入生の皆さんにお伝えしたいと思います。

一つは、「自分から考え自分から行動すること」です。高校までと違い、大学生には自分で決めなければいけない物事が多くあります。また、与えられている時間も膨

4) 委員・社会的活動・記事・その他

内田 亨(情報システム学科・教授)

・(2013年2月26日)新潟県農業共済組合連合会コンプライアンス委員会(新潟市)

越智 敏夫(情報文化学科・教授)

・(2013年2月)書評「佐野誠『99%のための経済学・教養編』新評論」共同通信配信各地方紙
・(毎月第4土曜)「特別編集委員の目」『時々草々』『新潟日報』

佐々木 寛(情報文化学科・教授)

・(2012年12月16日)コメント・解説「JRN総選挙スペシャル2012——私たちは何を選んだのか」BSNラジオ
・(2012年12月22日)インタビュー「県内識者と考える衆院選」『新潟日報』
・(2013年3月25日)論説「『空っぽのナショナリズム』から平和を守るために」『I女のしんぶん』第1072号

小林 満男(情報システム学科・教授)

・(2012年12月19日)「平成24年度第2回新潟市水道事業経営審議会」(新潟市)
・(2013年1月30日)「新潟市下水道事業公営企業会計システム再構築、業者選定に関する意見書」(新潟市)

小宮山 智志(情報システム学科・准教授)

・(2012年度より継続)佐渡観光プロジェクトチーム

ンパス)

- ・(2012年12月9日)「沖縄から考える脱軍事同盟への道」コーディネーター(大阪経済法科大学)
- ・(2013年1月6日)「松本哉さんを招いて——どう生きるか!『改憲政治』のただ中で」コーディネーター(新潟市)
- ・(2013年1月13日)「原発新潟県民投票シンポジウム」パネリスト(新潟市)
- ・(2013年2月11日)講演「『建国記念の日』を考える——東アジアの平和をめぐる状況と課題」(東京都)
- ・(2013年2月23日)講演「『核なき世界』と脱原発——平和学の視点から」脱原発をめざす新潟市民フォーラム主催(新潟市)
- ・(2013年3月23日)講演「絆(きずな)の政治学——アイデンティティとナショナリズムの病」(新潟市)

近山 英輔(情報システム学科・准教授)

・(2013年3月24日～28日)関山 恭代他「NMRメタボロミクスによるジャガイモ疫病抵抗性マーカーの探索」日本農芸化学会2013大会(仙台市)

3) 競争的資金獲得研究

近山 英輔(情報システム学科・准教授)

・(2013年4月～2014年3月)研究課題「大規模ゲノムデータを基盤とした情報解析手法の開発」新潟大学脳研究所共同利用・共同研究(代表)

新任教員紹介



谷本 和明 情報システム学科 教授

担当科目 マーケティング、商品企画、ベンチャービジネス

研究分野 逐次の経営戦略のための標準化された経営モデル、
戦略的意思決定モデル、
スマートコミュニティの構築と評価モデル、効果的な起業支援

略歴

1984年 UCLA Anderson School of Management 助手
1989年 株式会社国際リサーチアカデミーコンサルタント、パートナー、COO
2003年 英国国立ウェールズ大学 大学院MBAプログラム 教授
2010年 長崎総合科学大学 情報学部経営情報学科 教授
大学院工学研究科 博士課程 総合システム工学専攻 M〇合、D〇合教授
大学院新技術創成研究所 教授 兼任
産官学連携センター 教授 兼任

本年3月末に7年間勤めました本校を退職しました。本学に勤務の前はビジネスの世界にいましたので、当初は多少戸惑いを感じましたが、若い学生の皆さんと充実した時を過ごすことができました。大学生活は時間的、精神的に極めてフリーです。ぜひこの状況を生かして、学問はもとより学外実習、海外留学、地



NUISを去るにあたって

情報システム学科 准教授

吉田 博

域活動、イベント、ボランティア、旅などさまざまな学外活動に挑戦してください。外に目を向け、いろいろな人々と出会い・交流してください。初めてのことに、不安やリスクを伴いますが、体験を通じて学び、新たに発見する

し伸べ、背中を押してあげてください。前へ一歩進むようサポートする制度・システムを整えてください。私自身の経験でも、学外での活動機会を紹介することで、自分らしく意欲的に現場に飛び込み、成長した学生と出会うことができました。

自分らしく前へ二歩を

ことが多々あり、それをさらに次に生かすことができま

が、今後も関係者の皆さんのご尽力で、次代を担う若い人材が生き生きと国内外に巣立っていくことを期待しております。共に学び・楽しんだ学生の皆さん、お世話になった教職員・関係者の皆さんありがとうございました。

大です。要するに、自由です。自由の中では選択肢が多にも多いので、自発的な思考、行動に迫られると思います。ところがこの選択肢が多いことに気付かないまま、大学生活を送る人が意外と大勢います。ぜひこの言葉を常に念頭に置いてください。そして特に、大学の外へ積極的に行動の幅を広げることをお勧めします。

くれるのは人との関わり、つながりです。大学生活の最初は、人間関係を広げようとしてもなかなかうまくいかないと思います。ただ、一番手っ取り早い方法があるの

てそこからさらに輪を広げていってください。これから先、大学生活を送っていかばさまざまなもの、出来事、人に出会います。間違いを犯してしまうことや、人を傷つけてしまうこともあると思います。苦しいこ

教員の活動（本人申告による）

1) 研究論文・図書

小林 元裕(情報文化学科・教授)

・(2012年)「自著を語る—『近代中国の日本居留民と阿片』」、『近現代東北アジア地域史研究会 News letter』第24号 (115-122頁)

白井 健二(情報システム学科・教授)

・(2013年) "Power-Law Distribution of Rate-Of-Return Deviation and Evaluation of Cash Flow in a Control Equipment Manufacturing Company", International Journal of Innovative Computing, Information and Control 9(3), (1095-1112頁)

近山 英輔(情報システム学科・准教授)

・白井健二教授執筆論文と共著

アレクサンドル ブラソル(情報文化学科・教授)

・(2012年12月)『江戸から東京まで往復—江戸時代の文化と風習』(ロシア語) Moscow, Corpus-Astrel (528頁)

2) 学会・研究会・講演等

内田 亨(情報システム学科・教授)

・(2013年3月7日)「広域災害避難者支援の現状と課題」コメンテーター、地域デザイン学会東北・新潟地域部会公開研究会(新潟県立大学)

區 建英(情報文化学科・教授)

・(2013年3月26日)「公開「書評会」—『東アジア思想交流史』」評論者(名古屋大学)
・(2013年3月29日)公開講座「日本思想に関する一考察」(暨南大学、中国)

越智 敏夫(情報文化学科・教授)

・(2013年1月13日)「原発新潟県民投票公開討論会」パネリスト(新潟市)
・(2013年1月26日)講演「地方議会・議員の役割と議員定数について」(新潟市)
・(2013年2月19日)講演「直接民主制と選挙」(新潟市)

上西園 武良(情報システム学科・教授)

・小林満男教授発表研究と共著

小林 満男(情報システム学科・教授)

・(2013年3月16日)「インタラクティブ性を取り入れた『情報システム』の教育実践」情報処理学会情報処理教育委員会主催ISECON2012インタラクティブ審査(専修大学)

小宮山 智志(情報システム学科・准教授)

・(2013年2月12日)「地域コミュニティ協議会先進事例報告」コミュニティ協議会に対する市の支援策についての調査研究事業拡大研究会(新潟市)
・(2013年3月19日)伊佐藤他「ネガティブ情報がもたらす購買促進効果の要因解明」第55回数理社会学会(東北学院大学)
・小林満男教授発表研究と共著

佐々木 寛(情報文化学科・教授)

・(2012年11月24日～2013年1月28日)「映画でふりかえる日本の〈戦後〉——私たちの「これから」を考えるために」(全5回)エクステンションセンターオープンカレッジ(本学中央キ

学びのキャンパスによろこそ

情報文化学部長



越智 敏夫

人間もいろいろで、本当に十人十色である。とはいっても、それぞれの頭の中はそれほど自由に自分で決定できるわけではない。

同じ経験をした人々はみんな

な多かれ少なかれ似たような考えを持つようになるというのも当然である。この「みんな違う」と「みんな同じ」の間で人々は揺れ動く。

例えば戦争経験である。散々な目に遇った人たちは「戦争は悲惨だ」と考えるようになるだろう。けれども「戦争は素晴らしい」と考える人々も実在する。彼ら／彼女らは戦争で素晴らしい経験をした人か、そうでなければ直接の

戦争経験は無いけれども、戦争を素晴らしいと判断するにいたる別の経験をした人々である。

こうして同じ経験が多様に解釈されながら社会全体の認識は動いてゆく。大学についても同様である。

新入生の皆さんはこれから大学を経験する。けれども同じ大学を卒業しても、その大学への感想は学生によって千差万別である。学外での経験

どう過ごすか：自由と責任と選択

の差異もあるとはいえ、このような違いはどうして生じるのか。

大学が学生を差別することは絶対にない。大学としては皆さんが4年後になるべく後悔しないような環境を平等に提供したいと考え、実行している。その大学をどのように利用するのか。それは各人の責任と選択でしかない。はっきりいって、ここから先は皆さんの責任である。

例えば大学は学生を平等に「大人扱い」する。講義を欠席した学生がいたとしても、それが数回程度であれば放っておく。「大学に來なさい」とまめに連絡することが、かえって学生を幼児化させ、本人のためにならないと考えるからである。そういう「自由」は学生に対して平等に提供される。

しかしそうした環境のもとで、大学をサポートでも各種のNPOなど他の社会活動に参加する、あるいは自分

読みたい本をとことん読むといった行為を選択する学生もいれば、ただ寝ているだけの学生もいるだろう。どれを取るのか。この差はあまりに大きい。4年後に気付いても遅いほどの大きさである。そして自戒も込めていうが、これは4年間だけの問題ではなく、その後の時間も大きく規定する。考えてみれば、怖いことではある。

新入生へ向けてのメッセージ

サークル紹介

Q&A

Q. どの大会に参加していますか。
A. 2012

写真部

学報表紙の写真でも活躍中の写真部です。本間章裕(元)代表(情報システム学科3年、当時)にインタビューしました。



学報の表紙も飾っています

年度は7月に新潟学生写真連盟展、8月に新潟写真祭、10月に紅翔祭に出席しました。通年でテラス協で写真の展示を行っています。新潟学生写真連盟展は、新潟県内の4大学(新潟国際情報大学、新潟大学、青陵大学、新潟県立大学)の写真展です。毎年7月に行っている今年も新潟県民会館で開催しました。

新潟写真祭は、4年に1度開催される新潟県内の写真家・アマチュアが多く参加する写真展です。新潟市内のさまざまな所で展示があり、県内外の方々へ開放されています。紅翔祭の出展は、今年度部員が撮りためた写真の中でもえりすぐりのものを、一般のお客さまや本学学生に披露する場となりました。今年は約300人の方々にわれわれ写真部の展示を観ていただきました。

Q. 写真部を一言でアピールしてください。
A. 「一期一会」。

Q. 写真始めたきっかけは何ですか？
A. 思い出しにしておきたいものがたくさんあって、写真を撮り始めたのがきっかけです。

Q. あなたにとって写真部とは。
A. みんなと切磋琢磨できるところです。



佐々木 寛

新潟国際情報大学へようこそ。

皆さんと出会い、大学生活を共に過ごせることを心よりうれしく思います。皆さんがいまだ漠然としています。皆さんが描いている夢を、きつと実現させてください。教職員一同全力でお手伝いします。

まず、ほとんどの皆さんは、小中高校を卒業され、その延長線上に大学進学があるとお考えになっていると思いますが、それは違



白井 健二

本学は今年で開学20周年という記念すべき年です。今年入学する学生にとってはまことに記念すべき年でもあります。本学科はさらなる発展を遂げる意味で「情報コース」と「経営コース」という2つのコースに分けることにしました。2つのコースに分けた意味は、より専門性を持たせることにあります。本学カリキュラムは、特定分野に偏ることなく幅広いカリキュ

ます。大学では個々の目的や関心によって10人いれば10通りの進路が開けています。「みんなと一緒に」、「周りがそうするから」という理由だけでは、本当に充実した大学生活を送ることはできません。何でも根本から自分で考えて、自分で選び、その責任も全て自分で

ホンモノの知性を獲得しよう

で負う、というのが大学の流儀です。つまり大学は、真の「自由」を学ぶ場所だということです。

なぜ「自由」を学ぶのか。それは現代の不確実な社会では、お決まりの生き方や方法はもう通用しなくなっているからです。前例を踏襲して権威に「おまかせ」で生

きるだけでは、もうより善く生きられなくなりました。そればかりか、それが大きな不幸を招くことさえあるということが、例えば2年前の深刻な原発事故によって明らかになりました。原子力発電所は、みんなにとって大切な電気を生み出すだけでなく、

つて「安心」していました。そしてその結果、まさに前例のない大事故が起こり、何十万、何百万という人たちの生活が脅かされ、何百年、何万年と解決することのない負の遺産が遺されました。それが今の日本の偽らざる素顔です。

ラム体系を維持しながら、かつ専門性を持たせるようにしました。情報システムとは「社会または個人の活動に必要な情報の収集・蓄積・処理（加工）・伝達・利用に関わる仕組みであり、単にコンピュータを中心とした技術的なシステムを示すものではなく、社会

めの情報技術（含むプログラミング）とネットワークに関する知識を習得し、情報システムを創造できる人材を育成することを目指しております。一方、経営コースは将来の企業経営者、特に新潟で活躍できる経営者や新しいビジネスに挑戦でき

指しております。近年、よく聞く言葉に「グローバル化」があります。グローバル化とは、言い替えば「地球規模化」になります。社会的活動、経済的活動が国の垣根を超えて活動することになります。新潟においてもこのグローバル化の波を受けております。地域に貢献するためには、地域を支える自治体、あらゆる産業に人材を輩出することにあります。グローバル化に対応するためには英語力が不可欠となります。

1 回目

7/21 日

AM 10:30~PM 3:30

2 回目

8/4 日

AM 10:30~PM 3:30

3 回目

9/8 日

AM 10:30~PM 2:00

OPEN CAMPUS 2013

オープンキャンパス

高校生はじめてどなたでもご参加できます!

- 学科およびカリキュラム説明
- 入試情報説明
- 入試問題の傾向と対策
- 模擬講義

- コンピュータ実習
- 語学体験
- 個別入試相談
- 就職相談

- 海外留学相談
- 学生との懇談
- 学内見学
- 保護者向けプログラム

会場 新潟国際情報大学 本校

新潟市西区みずき野3-1-1
(JR越後赤塚駅下車 徒歩7分)

〈参加お申込み〉 高校の進路指導の先生、もしくは下記までお申込みください。

***7・8月無料送迎バス運行。**

詳細はホームページをご覧ください。

※時間変更となる場合もありますので事前にご確認ください。

世界の広さ多様さを実感

晴れやかに留学・海外セミナー帰国報告会

語学力も人間的にも大きく成長：昨年度の派遣留学(情報文化学科)と海外夏期セミナー(情報システム学科)の帰国報告会が2月7日、みずき野本校の国際交流センターで開かれました。今回の参加学生は53人。実り多かつた初めての

海外生活の様子が5カ国のコースの代表から報告され、懇親会では貴重な体験や失敗と互いの健闘などを語り合いました。また両学科長ら教職員は、留学体験を今後の進路に生かしてほしいと激励しました。

カナダコース

情報システム学科 日木 公美子

新しい家族となったホストファミリー

私たちは8月5日から約1カ月間、エドモントンにあるアルバータ大学へ行ってきました。前半は大学の寮で過ごしました。英語の授業がある建物から歩いて10分くらいのところにあるのでとても便利でした。寮には共有スペースがあり、そこで皆と食事をしたりしました。後半にはホームステイが始まり、それぞれの家庭でお世話になりました。大学からは遠くになって

しまったのでバスと電車を乗り継いで通いました。私のホストファミリーはとても親切な方々で、ホストマザーが作ってくれた料理はどれもおいしく、たまに日本食も作ってくれました。ホストファミリーはいつもニコニコしていて温かく接してくれました。楽しい毎日を過ごすことができて、カナダにもう一つ家族ができたみたいでした。英語の授業は、事前に受けたテストでクラス分けをされました。授業では教科書をあまり使いませんでした。毎回授業内容が異なり短いスピーチやゲーム、あるテーマについてグループで話し合うといったものでし

た。最初は先生の話す英語が理解できず何をしたらよいのか分からなかったが、一緒にクラスの人々が助けてくれたので徐々に慣れていきました。先生も私たちの伝えたいことを一生懸命理解しようとしてくれました。異なった文化の人たちが話していることをしっかりと聞かなければいけないと話していたことが印象に残りました。カナダでは授業だけでなくさまざまなアクティビティも体験しました。大学の敷地内を巡るゲームやゴルフ、馬に乗って山の中を散歩もしました。2泊3日でバンフという所へ行き、カヌーやゴンドラに乗って美しい景色を見ました。またグループに分かれて学生の方と会話をすることで自分の考えを伝える練習ができました。現地の会社訪問もとても良い経験になり、将来について考える上でのきっかけにもなりました。

英語力の向上を留学の一番の目的としておりましたが、留学は非常に有意義なものとなりました。私たちはEnglish Second Language、通称ESLという、第2言語を英語とする学生向けの、英語を学ぶためのクラスに在籍し、日々数時間ずつ英語漬けの授業を受けていました。留学の終わりがそこには、単語や言い回しがとっさに思いつかないこともありました。日常生活にはそれほど不便なく、語学はやはり使えば使うほど身につくのだと思いました。

今日は留学に興味のある1年生も来ているということですので、英語力向上に関してTOEICを具体例として挙げます。

中国コース

情報文化学科 小竹 晃平

多くの国の留学生とかけがえない時間

私たち12名は9月3日から1月14日までの約4カ月間、北京師範大学に留学しました。特に日中関係が悪い中、無事に生活していくことができたのかという不安を抱えながら、留学生生活はスタートしました。

日本で毎日のようにニュースで日本車が破壊された、日本企業が放火や破壊、略奪被害に遭うということが放送されていたため、危険なデモに遭遇するのではないかと心配でした。しかし一度もそのような行為を見ることはなく、むしろ中国人に話しかけられ「日本人気をつけろよ」と言われることもありました。日中関係の悪化により身の危険を感じることはありませんでした。私は日本にいるときからす



カナダ



アメリカ

情報文化学科 武藤 梨奈

語学力の向上を実感 後輩をサポートしたい

私たち14人は、8月21日から12月16日までの117日間、ノースウエストミズーリ州立大学

将来に生かそう貴重な体験

にルームメイトが外国人と決まっていた。北京の寮につきルームメイトはタイ人だと分かりました。彼は日本のジブリ映画やドラマ、芸能人などよく知っていて日本に興味があり、最初の頃はそれらのことをインターネットの翻訳サイトを利用してながら会話をしていました。その翻訳サイトを利用しなければ彼が何を言っているのか聞き取ることができず、日常会話は全くできませんでした。また文化の違いから、彼の行動に戸惑い、理解できず、ストレスがたまることがありました。しかし、勉強と一緒に生活していくうちに少しずつではありますが、相手が何を話しているのか聞き取り、自分の言いたいことを言えるようになり、外国人とルームメイトになり、良い経験ができたと思います。

特に私が一番楽しかったことは、実践的な授業と多くの学生との交流でした。授業では、主に会話・書き取り・聞き取りの3教科で学習をしました。ほかには新聞の読解・歴史・太極拳の授業がありました。特に太極拳は中国の習慣を学ぶいい機会でした。

北京師範大学ではさまざまな国の学生が在籍しています。私のクラスには日本人以外に韓国・タイ・インドネシア・メキシコ・ドイツの学生がいました。最初の頃は自分のことで精いっぱいでしたが、授業を理解できるようにになったころからはクラスメイトともコミュニケーションがとれるようになりました。授業ではそれぞれの国の料理や有名ななどを紹介したり、



中国

放課後にはクラス会をしたり、ご飯を食べにいったりと、かけがえない時間を共に過ごしました。たった半年間の留学でこれだけの外国人と関わったことは喜ばしいことであり、異文化を理解するうえでこのような交流はとてもいい勉強になりました。

一方でこの留学では日本人との付き合いも非常に多かったです。北京師範大学には日本人会という日本人留学生が運営するボランティア団体があり、大変お世話になりました。日本人同士の交流や、イベントの参加を通してたくさん日本人と仲良くなることができました。なかでも、「北京の夜」というイベントは最高でした。そのイベントは、さまざまな国の留学生がチームを作って参加します。日本人会も毎晩、寒い中、気温がマイナスの日も外で練習したかいがあり、予選を勝ち抜き出場することができました。私たちは



ロシア

そのステージで一世風靡の「前略道の上より」を踊りました。「北京の夜」は忘れられない思い出です。

ロシアコース

情報文化学科

山口裕加

学んだ財産を やの羅にのこす

Здравствуйте.

私たちは昨年の9月28日から2月3日までウラジオストクの極東連邦大学に約4カ月間留学しました。早速ですが、少しロシア語でお話させてください。

Я скажу о преподавателях. (先生方についてお話しします)

Они очень добрые любящие.

(彼らはとても親切で愛情深いです)

Мы ездили на море, в лес и другой город с преподавателями.



韓国

(私たちは、先生方と一緒に海や森、ほかの都市へ行きました)

Я очень люблю их.

(私は彼らが大好きです)

Спасибо.

(ありがとうございます)

ロシアでのお世話になった先生方についてお話させていたいただきましたが、残念ながら、私のロシア語は未熟です。しかし私は今回の留学で、皆さんの前でロシア語を話す度胸を身に付けてきました。これは、失敗したり後悔したりしながら成長してきた友人たちや、何度失敗しても温かく指導してくださった先生方のおかげです。

これから春休みを経て、元の学校生活に戻ります。しかし、留学以前の生活に戻ってしまっただけではないと思います。私たちが得た大きな財産をどのように維持し、還元するかを考える上でこの春休みは大切な期間です。それは、私だけでなく留学に参加した多くの学生が考えて

韓国コース

情報文化学科

細山雄平

全くなかった反日感情 好きになり韓字も上達

私は韓国に対して正直、不安がありました。それは反日活動を取り上げるニュースなどを多く目にしていたためです。しかし、現地ですのうなことは全くなく、むしろ韓国語をうまく話せない日本人の私にも、寮の友人たちは積極的に話し掛けてくれ、一緒に卓球をしたり、お酒を飲んだりしました。もしこれが日本なら、見知らぬ韓国人が寮に入ってきてても多くの日本人は無視するでしょうが、韓国人はそうはしませんでした。売店や食堂のおばさんなども積極的に話しかけてくれて、時々おせっかいと感じてしまいうくらい面倒見がいい人が多かったです。

これにより韓国に対する私の考え方も変わっていき韓国が好きになりました。そして何より留学を通して言語は勉強ではなく、コミュニケーションのツールなのだと実感しました。この留学をすてきな思い出にすることは簡単です。留学したという事実、思い出にすがっていいからでいいです。だがそれではカッコ悪くないでしょうか。あくまで大事なことは、この経験をどうこれからに生かすかです。これからなにを学び、どうして行きたいかだと思います。

昨年、本学のホームページを改定した。その基盤となるコンセプトは、スマートフォンにも極力対応できるように「シンプル&ビジュアル」である。ホームページによって、できるだけ本学の情報を発信して、本学について人々に理解してもらいたいと思っている。おかげさまで現在までのところ、順調に運用されている。ホームページに対する総合評価アンケートも試験的に運用した。

また本年には、本学のFacebookが立ち上がった。

(<https://www.facebook.com/nuisface>)
本学のFacebookでは、大学のイベント、ニュースなどさまざまな最新情報がアップロードされている。このFacebookを通して利用者が交流し、気軽にコミュニケーションを楽しんでいたければ、とわれわれは思っている。3月27日現在、30ほどの投稿があるが、学生や教員の「手触り感」のある写真がアップロードされている。これによって、ヴィジュアルでフレッシュな情報が提供されることになる。例えば、卒業式や卒業記念祝賀会の写真を見てほしい。みんな4年間の「偉業」を成し遂げたのか、大変うれしそうである。また、国際交流インストラクターやゴルフ部合宿の写真を見てほしい。こちらは学外での活動である。みんな生き生きとした顔をしているように見える。

大学とは、勉学および部活・サークル活動、社会貢献活動を通して教養・人間形成をしていく「場」である。こうした充実した学生生活を送ることができる「大学」とは、なんと良いところなのか。時間と空間を学生と共有できる教職員にとってもかけがえのない世界である。

時間の経つのが速かった大学生活でした。

正直やり残したことがあります。思い出と出会い、そしてたくさん仲間をつくることができませんでした。

大学生活で一番印象に残っている出来事は、就職活動です。初めて「自分」を企業に売り込むということに戸惑いがあり、自分をアピールしようと思っても、「自分」には何が強みで何が弱みであるのか理解できておらず、うまく伝えることができませんでした。

そこで、大学のキャリア支援課に相談したり、直接企業の人事課の方に相談したりすることになった。

「自分」意識した就職活動

情報文化学科 小野澤 慶

これで、自分のやりたいことが明確になったことを覚えています。今では、「自分」に合った職を見つけることができ、納得した就職活動ができたと感じています。

これからは、働いた成果が残せるように努力します！

在学生には、「常に行動する」ということを意識し、いろいろなことに興味を持ち、就職活動に生かしてほしいと思います。

お世話になったキャリア支援課の方々、ずっと見守ってくれていた両親に感謝しています。

卒業にあたって たくさんのお出会いと仲間たち

4年前、私が新潟国際情報大学に入学を決めたときは、学生としてやらなければならないことをいつも考えていたような気がします。「就職難」という言葉がちらついて、何をしようかと考えてばかりいました。そんな考え方を変えたのはカナダ留学でした。

視野が変わってまず行動

情報システム学科 中野 沙紀

1カ月という短い期間でしたが、ホームステイを経験し、さまざまな国の人と出会い、多くの人とコミュニケーションを重ねることで、自分の狭い視野が大きく変わりました。「就職」という枠にとらわれず、自分が生きる上で何をしたいのかを考えるようになり「考えるよ

りもまず行動、経験してみないと」と思うようになりました。新入生・在学生には、私のように「就職難」という言葉におびえて入学した人も少なくはないと思います。4年間その言葉に縛られて過ごすよりも、良好な友人関係をもち、学びたいという意欲を忘れず、ぜひとも学生生活を謳歌して欲しいです。結果は後からついてくると信じています。

私はこの春から社会人として、自分がどう社会に貢献できるのか、どう生きるのかを考える学びながら働いていきます。

長いようでとても短かった4年間でした。入学する前は、大

学生だから毎日のんびり過ごせる！やっただけ！と期待していましたが、実際に入学したら毎日ある授業、初めての一人暮らし、アルバイトで忙しい日々を送っていました。

計画きちんと遊び学んだ

情報文化学科 石田 万貴

本当にビックリするくらいあつという間でした。3、4年生になると授業数が減るので友達に会う機会も少なくなります。ましてや社会人になれば自分の時間さえ自由にならない時もあると思います。在学生の皆さんにはたくさん遊んでもらいたいです！ご飯を食べに行ったり旅行に行ったり。私はゼミ旅行

に行けなかったこと、卒業旅行の計画性の無さがとても悔いに残っています。皆さん計画をきちんと立てて遊びましょう。もちろん単位をしっかりと取ることが前提なので、そこは精いっぱい頑張りましょう。

ゼミで長い間お世話になった熊谷先生、就活でとても迷惑をかけてしまったキャリア支援課の皆さん、毎日私のお腹を満たしてくれたJOY・弥彦の皆さん、そしていつも支えてくれた友達・家族。みんな大好きです。宝物です。

本当にありがとうございました！

求めれば大きな出会いあり

情報システム学科 牧 健介

もちろんそれらの活動は、楽しいことばかりではありませんでした。しかし、先生、ゼミの仲間、他大学の仲間、地域の仲間のサポートと、その困難を乗り越えた経験は、これから生きていく大きな糧になったと感じています。

私が大学生活を通して感じたことは、「求める人のところに機会は訪れる」ということです。私はもともと積極的な性格ではなく、大学での勉強にもあまり熱心ではありませんでした。しかし、地元の商店街の活動を見るうちに「地域の活性化」について興味を持ち、自分から学ぼうと思うようになった。

した。それを境に、この大学から、実にさまざまな地域と触れ合う機会を得ました。赤塚のコミュニティのお手伝いや、内野の商店街でのインターンシップ、ゼミで行ったキー喫茶。先日は新潟県コミュニティ・フォーラムに参加し、自分の研

学長式辞

新潟国際情報大学長
平山 征夫学び、考え、判断して
たじろがずに生きよう

本日、ここに新潟国際情報大学の第16回卒業式を迎えるに当たり、まず最初に卒業生の皆さんに心から「卒業おめでとう」と祝福の言葉を贈ります。

また、ご父母の皆さまにも併せてお祝い申し上げたいと思います。ご臨席いただきましたご来賓の方々には御礼申し上げます。新潟国際情報大学の役員、教職員一同を代表いたしまして皆さまに御礼とお祝いを申し上げます。

卒業生の皆さんは今、卒業の喜びと4年間のたくさんの思い出で胸がいっぱいのことと思います。同時に4月からの社会人としての新たなスタートへの期待と不安もあることでしょう。4年前、皆さんは大きな希望を持って本学に入学してきました。そして4年の歳月がたちました。みずき野でのキャンパスライフはどうでしたか。恵まれた自然の中でスポーツにいそしみ、友人と友情を育み、そして先生方の温かい指導のもと勉学に励んだ大学生活は、その思い出とともに皆さんが最も輝いていた青春の尊い記念碑になるでしょう。

今春、みずき野から巣立ってゆく卒業生は、情報文化学科111名、情報システム学科175名、合計情報文化学部286名です。

皆さんの多くは明日からはそれぞれが選んだ企業等で社会人としての人生をスタートするわけです。実社会では大学時代とは違う多くの困難にぶつかることでしょう。プロとして仕事をして報酬を得るということとは、それほど易しいことではありませんし、それが容易でない時代でもあります。そうした困難を克服し社会人として自立してゆくのに、大学で学んだことはすぐ役には立たないでしょう。だから、当面皆さんはまごつき悩むでしょう。しかし、本学で身に付けた学び、考え、判断し行動するという訓練は、必ず皆さんに木が育ってゆくときに地中に深く伸びて、木を支えてくれる根のように人生に必要な栄養を送ってくれるはずで、みずき野で学んだことが次第に解決力として皆さんの生きてゆく力となっていくでしょう。

長く低迷していた日本経済も「アベノミクス」といわれるデフレ対策としての金融・財政・成長戦略政策への期待から円安・株高が進んでいます。デフレを貨幣問題として金融緩和で対応するだけで解決するのだろうか。ギリシャ問題から危機が叫ばれた欧州国家債務危機も、不思議な静けさの中で基本的解決対応がないまま、忘れかけられているけれど大丈夫だろうか。シェールガス革命もあって米国では景気回復気配が見られているけれど、リーマンショックの原因となったマネーゲームはもう起こらないのだろうか。TPPなど自由貿易が正義という風潮の元、経済格差だけでなく貿易取引条件にまで格差を設けるの

が正しいのだろうか。欧米先進資本主義国にとって代ろうとしているBRICS等の新成長国は「国家資本主義」といわれる国々だけれど、これらの国がプレゼンスを増すとき、世界のルールはどうなるのか、民主主義的に後退のリスクはないのだろうか。

永年政治・経済界で生きてきて引退した私には、皆さんがこれから生きてゆく社会を時代的にみると、必ずしも安心できる平穏な時代には見えません。そんな社会・時代を皆さんは生きてゆくのです。だからといってたじろいではいられません。よく考えれば人は昔からいつだって厳しい状況を生きてきたのです。問題の無い時代なんてありませんでした。その都度、若者は溢れんばかりの勇気を、年寄りには永年の経験による知恵を持ち寄って、助け合って乗り越えてきたのです。これからもそうやって立ち向かってゆくしかないのです。

厳しい経済環境の影響で、昨年までは就職を希望しながら、未就職のまま卒業してゆかざるを得なかった卒業生が多く、そのことを遺憾としてお詫びしてきました。就職戦線は少し改善されたといわれていますが、担当教職員の努力にもかかわらず本年も未就職のまま卒業を余儀なくされる卒業生がおりますことは、誠に残念なことであり、未就職の卒業生に對しましては、大学としましては卒業後も極力支援してまいりますので、引き続き密接に連絡を取ってくださいよう申し添えます。

卒業される皆さんに申し上げたいことは、自分の人生の夢をいつも持って、その実現に向かってチャレンジしてほしいということです。困難に向き合ってもそれを他人のせいにはせず、自らが勇気を持って立ち向かい、夢の実現に努めてほしいのです。自分の人生は自分の足で立って、前を向いて歩んでゆくしかないからです。困難を克

服した時、初めて人生の喜びが待っているのです。問題の克服に当たっては、この大学で学んだことが、考え判断し、そして行動する力となって皆さんを支えてくれるでしょう。全力を尽くした人生なら、納得もできますし、悔いもないでしょう。一度の人生です。納得のゆく人生を送ってください。そのためにも、常に夢を持って青春の心でそれを全力で追い求めてください。

4年前の卒業式で、卒業生に対しサミュエル・ウルマンの「青春」という詩を贈りました。それは「青春とは人生の在る期間をいうのではなく、心の様相をいうのだ」というもので、青春は若い肉体に宿るのではなく、若い精神に宿るということを言っています。ですからウルマンは、詩の中で「年を重ねただけで人は老いない。理想を失うときに初めて老いる。希望ある限り若く、失望とともに老い朽ちる」と言っています。皆さんにそのことをもつと具体的に感得してもらいたいのので、ヴィクトール・E・フランクルというオーストリアの精神科医の書いた「夜と霧」という本を紹介したいと思います。

フランクルはユダヤ人というだけで、ナチスの強制収容所に入れられ極限状態を経験した上で、奇跡的に生還した人です。その経験を綴ったのがこの本です。ナチスの強制収容所関係の本として「アンネの日記」と並んで有名な本です。私も若い時読んで大きな感動を覚えたことを覚えていますが、昨年8月某TV局の「名著を読む」という番組で採り上げられ少し話題になりましたので、読まれた方もおられるかと思えます。この本は出版されると世界中で読まれ、多くの人に感動を与え、今でも読まれるロングセラーとなりました。

それはこの本が単にナチス収容所の極限体験を記録したのではなく、そこで命を失っていった多くの人の死に臨んだときの

行動を観察し、最後まで生きがいを求めて死んでいった崇高な人間の精神を見出し、そこから「人生の意味と使命」の根本を見出そうとしているからです。絶望から全く何も感じない「無感覚人間」になる人、高圧鉄線に飛び込み自ら命を断つ人、死んでゆく仲間のパンや靴を奪う者がいる一方で、仲間に自分のパンを与え、励ましてくれる人もいます。そしてこの過酷な収容所で人に生きる力を与え、少しでも生きようとさせたものは、肉体の頑健さではなくて、精神性の高さ、豊かさであることに気付くのです。フランク自身は、収容所に入れられる前に手がけていた原稿の完成に生きがいを見出してゆきます。この本を読むと生きがいを持って絶望状態の中を生きただけではなく、不思議に生きている感じが湧いてきます。永い人生でも苦しい状況に至ったら、この本を思い出して読んでください。きっと勇気が湧いてくるでしょう。

今年11日に東日本大震災から2年という

理事長祝辞



学校法人 新潟平成学院
理事長 関根 秀樹

人生ドラマを演ずる主役

自分を大切に真摯に生きよう

本年の積雪はあまり多くはありませんでしたが、寒さは例年になく厳しいものでし

ことで、たくさんの方の報道がありました。この震災で1万8千名強の方が亡くなり、2千8百余名のまだ行方不明の方がおられます。多くの方が大事な家族、友人を亡くし、どん底からの復興に取り組んでしまいましたが、遅々として進んでいません。「時間が心の傷みを癒してくれる」というのは、あまりに大きな悲しみの前では全くの虚言でしかありません。時間はかえって悲しみを深めているようにすら見えます。復興の遅れがさらなる精神的被災者をつくり出してさいます。仕事が無くやむなく故郷を離れる人もいます。この間、政治は何をしたのだろうか、またわれわれ隣県に住む者は何をしてあげたのだろうか。がれき処理を巡って知事と市長が対立しているのは、被災地の人々にはどう写っているのだろうか、など種々考えさせられました。私にできたことは、石巻市に住む大学時代の友人に電話をかけて励ますぐらいでした。そして大震災の報道を見ていて、あらためてフランクが「夜と霧」で指摘した

た。そんななか、本日卒業式を迎えられた286名の諸君に、本学を創設いたしました学校法人としても「おめでとう」とお祝いを申し上げます。

さて、皆さんが学んでいた4年の間に、大震災と原発事故という未曾有の大災害を私どもは経験いたしました。先日、3月11日を迎え満2年が過ぎたのですが、その復興と事故の収束の見通しは立っておらず、いまだに不自由な生活を送られている方々に心からお見舞いを申し上げます次第です。現在の日本は、少子化がますます進み、

社会保障も財政も屋台骨が揺らぎ、先の見えない状況の中にあります。本年に入つて、政治的にはいくらか安定し、このところ世界経済も、2008年のリーマンショックの不況がようやく底を打って、日

「どんなときも人生には意味がある」という言葉を思い出しました。それはどんな逆境でも生きる意味を見出すことが、人間として生きてゆくうえで大切であることを教えています。被災された方々が時間とともに絶望に向かうのではなく、希望の方に向かつてほしい、そうなるようにするにはどうしたら良いかと考えていました。

卒業生諸君は今、希望に満ちた精神の中におられます。今すぐフランクは必要はないでしょうが、将来どんな状況におかれたとしても「人生には、生きることには意味がある」ことを忘れないでください。フランクは最後に「悩んで悩んで悩みぬくこと、苦しんで苦しんで苦しめぬくこと。その絶望の果てにこそ、一条の希望の光が届く」と言っています。悩み苦しむことも意味があると云っています。大切なことがもう一つあります。こうした精神にいたるには、卒業後も引き続き学び、考え、判断するということが大切だということです。そうすることで他人のことを思いやれる他人に信用される優しい人間になることが「自立した人間になる」ことの目

的でもあるからです。そのことも申し添えておきたいと思います。

卒業後も本学に熱い想いを寄せ続けてください。本年、本学は創立20周年を迎え新たなスタートを切ります。引き続き本学が地域に必要な大学であるだけでなく、多くの卒業生にとって、誇りの持てる母校であり続ける責任が私たちにはあると思っています。そのためにも卒業生の支援・激励が重要なことです。これからは皆さんと卒業生としてお付き合いできますことを楽しみにしています。街ですれ違ったら声を掛けてください。傍に夫や妻や子供さんがいたりして「おお！いい人生送っているな」と感じさせてくだされば学長として大きな幸せです。

みずき野にも間もなく20回目の春が訪れます。そして皆さんの後輩を迎えます。季節は巡り人々はまた新たな人生に立ち向かいます。皆さんは社会人としての人生に歩み出します。そんな皆さんにあためて卒業おめでとうと申し上げますとともに、その前途に幸多かれとエールを送って私の祝いの言葉といたします。



JABEE認定プログラム

8人に修了証書

取得学生が100人超す

卒業式に先立って、JABEE(日本技術者教育認定機構)情報システム技術プログラムの修了証書授与式も行われました。

平成24年度の同プログラムを無事修了したのは8人で、学長が修了証書を授与し努力をたたえ今後の活躍を激励しました。

このプログラムはJABEEが認定する教育制度で、情報システムを開発する技術者になるために必要な教育を受けたという社会的評価が与えられ、修了生は文部科学省令で定める国家資格である「技術士」の第一次試験免除の優遇措置が受けられ、また所定の登録を行うことによって「技術士補」の資格を取得することができます。

これで本学情報システム学科を卒業し修了証書を取得した学生が合わせて101人となりました。

本の景気も回復しつつあるように思われます。このように、いくらか明るい兆しの中で、本日を迎えることができました。

いよいよ社会人としての第1歩をただ今から踏み出します。これまで、学生ということで家族の厚い庇護のもとにあり、社会のあらゆる分野で大目に見られ、許され、支えられてきました。本学に在学中、勉強や将来の進路のこと、アルバイト、就職活動など、悩みや苦勞も多々あったと思いますが、このみずき野の4年間は、先の何十年かの人生の中で、特に恵まれた貴重な時間となるはずです。そして信頼でき

卒業生代表 答辞



(総代)情報文化学科
石橋 妃奈子

学生だことが役に立つ喜び

貴重で幸せな時間を過ごした

本日は、私たち卒業生のために盛大な卒業式を挙げていただき、誠にありがとうございます。ご来賓の皆さま、関係者の皆さまにおかれましては、ご多忙の中ご出席いただきまして、心より御礼申し上げます。

私は小さな頃から、日本では見ることができない外国の生活習慣や文化に興味があり、異文化と英語を学びたく、この大学に入学いたしました。大学生活は私が想像し

る教師と接し、また、将来とともに語る友人ができたなら、有意義な学生生活であったといえるでしょう。

これからは、働いていくことになり、人それぞれの考え方があり、生き方も違います。「自分は将来こうなるぞ、こうしたい」と、いつも夢と目的意識を持っていきたいものです。最終的には目標や目的を持った人と、持たない人では人生の後半で相当な差がつくことは間違いありません。

いつの時代も生きていく上で苦勞はついてまわります。楽な人生などありません。

ていた以上におもしろく、新しい発見であふれておりました。

その大きな発見の一つが、国際交流インストラクターの活動です。授業とは机に座って先生の話を聞くものだと思っていた私にとって、自分の学んだことを他の誰かに伝えるワークシヨップづくりは全く新しい経験でした。学校で学んだことが役に立ったと感じる瞬間は、卒業してからずっと後にやってくることが多いと思います。しかし、私は国際交流インストラクターの活動を通じて「自分が学んだことが誰かを助けて、役に立つ」ということを学生のうちに実感することができました。

アメリカへの派遣留学も、自分の精神的な弱さや、嫌なことは避けて通ろうとする性格と向き合う良い機会でした。留学当初は、英語もうまく伝わらず、あれほど好きで触れたいと思っていたはずのアメリカ社会にも、文化や習慣の違いで人と話すのが怖くて嫌になったこともありましたが、しかし、現地でできた友人たちや日本にいる家族に励まされながら、外に出て、たくさん会話をするようにしました。すると人に道を尋ねることができるようになり、冗談が

何十年か先になって生涯を振り返ったとき、自分が満足できるものが一つでも二つでもあれば、幸せな人生であったといえるでしょう。

人生はドラマであり、それを演ずる主役は自分です。一生かけてどのような人生を描くかが各々に問われています。自分を大切に一日一日を真摯に生きてください。

本学も、今年開学20周年の記念すべき年になります。ますます進む少子高齢化の難しい時代ですが、次の30周年、40周年に向けて、地域の高等教育機関として評価され、

言えるようになり、生活を楽しめるようになります。あの時苦しい状況でも逃げずに頑張れたことが、今の私にとって大きな自信になっています。

この大学で過ごした時間を通じて、成功も失敗も数多く経験しました。どんな時も、成功を一緒に喜んでくれる友人たち、失敗しても温かく見守ってくれる先生方がそばにいてくださり、その一つ一つがこれから社会に出る私たちにとって大きな糧になると思います。今はまだはつきりと感じることもできません。5年後、10年後に、自分がこの大学の学生であった頃を振り返った時、それがどんなに貴重で幸せな時間であったかあらためて気付くのだと思います。

最後になりましたが、学ぶことの大切さ、おもしろさを教えてくださった教職員の皆さま、ここまで私たちを支えてくれた家族、学生生活を共に過ごした友人たちから感謝いたします。

今後この新潟国際情報大学から国際社会で活躍する人材が輩出されることを願ひ、答辞とさせていただきます。

祝電

順不同

新潟県知事

泉田 裕彦様

新潟市長

篠田 昭様

新潟商工会議所会頭

敦井 榮一様

日本私立大学協会会長

大沼 淳様

ALSOK

廣田 幹人様

新潟総合警備保障株式会社

代表取締役社長 廣田 幹人様

株式会社エクセルテック

代表取締役 渡辺 和市様

関越ソフトウェア株式会社

代表取締役 矢島 徹雄様

月岡温泉ホテル清風苑

代表取締役 樋口 恵一様

株式会社総研システムズ

代表取締役社長 清水 保様

株式会社リオン・ドール

代表取締役社長 小池 信介様

コーポレーション

代表取締役社長 小池 信介様

皆さんにとって将来にわたり誇り得る母校であり続けるために、本学関係者一同懸命に努力してまいります。

皆さんも、今後同窓会の一員として、また、続く後輩のためにも、ご支援を賜りますようお願いいたします。

本日ご列席のご父母をはじめ、日ごろの教育研究、就職活動にご協力、ご支援いただいております企業の方々に、この場を借りて御礼申し上げます。

あらためて「卒業をお祝いし、前途に幸多いことを願ひ」祝辞といたします。

平成24年度卒業式

決意新た286人の門出を祝う

平成24年度（第16回）卒業式が3月20日に行われ、286人（情報文化学科111人、情報システム学科175人）が、決意新たに社会へ巣立っていきま

した。
新潟市民芸術文化会館（りゅーとびあ）コンサートホールで行われた式典では、先ず卒業生が名前を呼ばれて壇上へ、平山征夫学長が一人一人と握手して前途を祝福しました。平山学長は式辞で「いつまでも若い精神を持ち続け、理想を失わず勇気を持って困難に立ち向か



夢を持ち続けよう 感動の人生を送ろう

う」を激励し、V・E・フランクルの著書「夜と霧」を紹介し「どんなときにも人生は意味がある」と、はなむけの言葉を贈りました。

これに対し、卒業生を代表して情報文化学科・石橋妃奈子さんが「学ぶことの大切さ面白さを教わり、新しい発見にあふれた学生生活だった。その全てを糧にして社会に役立ちたい」と晴れやかに答辞を述べました。

最後に卒業生と教職員と会場の父母も全員が一緒に、合唱部と吹奏楽部の演奏で校歌「空がある風がある光がある」を歌い、大きな祝福の拍手が会場いっばいに響きました。

夕方には、恒例の祝賀会がANAクラウンプラザホテル新潟で開かれました。晴れやかに卒業生がゼミ教職員などを囲み互励の将来の健闘と夢を語り合い、乾杯と記念写真で別れを惜しみながら最後のパーティーを楽しんでいました。



第16回までの卒業生は合計4,667人に

年 度	卒業者数	情報文化 学科	情報システム 学科
平成9年度(第 1回)	295人	116人	179人
10年度(第 2回)	290人	124人	166人
11年度(第 3回)	303人	126人	177人
12年度(第 4回)	294人	114人	180人
13年度(第 5回)	291人	118人	173人
14年度(第 6回)	277人	111人	166人
15年度(第 7回)	314人	118人	196人
16年度(第 8回)	294人	115人	179人
17年度(第 9回)	299人	121人	178人
18年度(第10回)	278人	110人	168人
19年度(第11回)	312人	126人	186人
20年度(第12回)	285人	117人	168人
21年度(第13回)	267人	105人	162人
22年度(第14回)	310人	117人	193人
23年度(第15回)	272人	110人	162人
24年度(第16回)	286人	111人	175人
合 計	4,667人	1,859人	2,808人

※9月卒業生含む



平成24年度 卒業生特別表彰

学長賞（学業成績優秀者）

情報文化学科（総代） 石橋 妃奈子

情報システム学科 久保 杏子

学術賞

情報文化学科 井上 紗萱

「話してみよう韓国語」第3回新潟大会の「指定スキット部門」で最優秀賞を受賞。さらに、「韓国語検定試験3級」（本学資格取得奨励奨学金Ⅱ種対象）にも合格した。

情報文化学科 菊地 みはる

「話してみよう韓国語」第3回新潟大会の「創作スキット部門」で最優秀賞を受賞。さらに、「ハングル能力検定準2級」（本学資格取得奨励奨学金Ⅰ種対象）にも合格した。

情報システム学科 大岩 昇司

「応用情報技術者試験」（本学資格取得奨励奨学金Ⅰ種対象）に合格。また、正課授業ではティーチングアシスタントとして積極的な後輩の指導を行った。

情報システム学科 山倉 有馬

「第8回懸賞付学生論文発表会」で、自身がすでに取りかかっている事業に關してのプレゼンテーションを行い、「さいたま起業家協議会賞」を受賞した。

課外活動賞

情報文化学科 伊藤 希望

サークル活動に積極的にかかわるとともに、紅翔祭や瑞波祭においてもスタッフとして参加し、課外活動の活性化に多大な貢献をした。

地域活動賞

情報システム学科 山中 智成

西区の地域活動に積極的に参加し、地域を支援するとともに、大学の地域貢献に本学の学生として多大な役割を担った。